

森ノ宮医療大学学術セミナー

歯ぎしりを科学的に考察する

日時： 平成27年9月1日（火） 午後5時30分～

場所： 森ノ宮医療大学 西棟531教室

講師： 加藤 隆史先生

（大阪大学大学院歯学研究科口腔解剖学第二教室・
大阪大学医学部附属病院 睡眠医療センター）

すやすや眠る同室者の、非常に不快な歯ぎしりの音に驚いた経験をした人は決して少なくない。歯ぎしりの嫌な音は、上下顎の歯を強くこすり合わせる顎運動によって生じるが、その音を起きているときに再現するのは難しい。睡眠中に歯ぎしり音を発生させる顎運動は、睡眠時ブラキシズム（Sleep [-related] bruxism）という睡眠関連運動異常症に分類されている。睡眠時ブラキシズムは咬耗や顎関節症などの原因と考えられ、歯科医学領域では古くから関心が高い現象であった。また、咬合（咬み合わせ）の異常が主たる原因因子であるとするdogmaが信じられてきた。しかし、近年の睡眠医学的研究から、睡眠時ブラキシズムの発生機序には中枢神経系、とくに睡眠調節と顎運動調節に関わる神経機構が重要であることが明らかとなってきた。本講演では、歯ぎしりに関する臨床歯科医学のdogmaがパラダイムシフトしたことを、science-basedな研究成果を示しながら概説する。

加藤先生 ご略歴

1994年 大阪大学歯学部歯学科卒業
1998年 同大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）
同年 モントリオールサクリカ病院睡眠生体リズム研究所、モントリオール大学歯学部・同大学神経科学研究所 博士研究員および研究助手
2003年 松本歯科大学 総合歯科医学研究所・講師
2005年 同大学・准教授
2008年 同大学病院歯ぎしり睡眠時無呼吸症外来・主任（兼務）
2008年9月 大阪大学大学院歯学研究科・講師
2009年 国際歯科研究会（IADR）Neuroscience group：President
2014年 大阪大学医学部附属病院 睡眠医療センター（兼務）
[受賞]

Jean-Paul Lussier Prize (2001)、CADR Postdoctoral Research Award (2002)、IADR Distinguished Scientist Award (Yong Investigator Award) (2005)、弓倉学術奨励賞 (2014)